

夏休み中の部活動について

【熱中症警戒アラートが発令された場合】

①活動時間は原則 2 時間（準備・片付け含む）

- ・活動時間内にクールタイム部屋を活用して生徒に休憩をとらせる。
また、運動部は必ず活動後クールタイム部屋を 15 分利用する。
- ・活動の時間帯は各部で調整する。（気温が一番高い 14 時頃を避けて）
- ・エアコンのある部屋で活動する部活は、通常通りとする。

②顧問がつけない場合は活動しない。

（熱中症警戒アラートが出ていない場合も原則顧問がつく）

③生徒への周知方法及び顧問の留意事項

- ・顧問は、前日からの予報を確認し、生徒に活動時間を伝える。
- ・職員室 1、2 年生側入口に熱中症警戒アラート情報を掲示しておく。（環境省 熱中症予防情報サイトより）
- ・顧問は、活動中も連絡が届くように携帯電話を所持する。
- ・顧問は、活動場所で WBGT 測定器を活用し、常に熱中症に注意する。

（例）



気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31℃以上 35℃未満	28以上 31未満	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温 が上昇しやすい運動は避ける。 10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28℃以上 31℃未満	25以上 28未満	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水 分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24℃以上 28℃未満	21以上 25未満	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に 水分・塩分を補給する。
24℃未満	21未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は 必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので 注意。

④その他

- ・練習試合の活動時間については顧問間で話し合ってから決める。
- ・大会については主催者の指示に従う。
- ・熱中症の症状が出たら保護者に迎えに来てもらう（状況を見て救急搬送）
- ・クールタイム部屋はマルチメディア室と 3-1 教室、3-5 教室を使うこととする。
- ・クールタイム部屋を使うときは、顧問が必ずつくこととする。